科目ナンバリング	G-LAS13 80007 LJ90

授業科目名 <英訳>	健康情報学Ⅰ Health Informatics I	担当者所属 職名・氏名	医学研究科　教授　中山　健夫 医学研究科　特定教授　高橋　由光 非常勤講師　杉森　裕樹 非常勤講師　園田　由紀 非常勤講師　若尾　文彦 附属病院　特定教授　加藤　源太 非常勤講師　黒田　聡 非常勤講師　藤本　修平

群	大学院横断教育科目群	分野(分類)	健康・医療系	使用言語	日本語

旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）

開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	金2	配当学年	大学院生	対象学生	全学向

（医学研究科の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

健康・医療情報、データや知識の収集、蓄積、伝達、検索、評価法、情報リテラシー、ヘルス・コミュニケーション（リスクコミュニケーション含む）、個人情報保護などの情報倫理の課題について講義する。疫学やEBMを基本として、医学文献からマスメディア、インターネットによる健康情報まで、さまざまな情報の特徴を知り、それらを主体的、効果的に活用する方法を考える。さらに欧米の医療関係者に関心の高い性格テスト・MBTI(Myers-Briggs Type Indicator)のワークショップを通して、個人の情報処理・認知の特性とコミュニケーションに関して体験的理解を深める。

教育・学習方法
講義形式と実習

【大学院横断教育の概要・目的】
健康と医療を巡る情報の解釈・活用能力である「ヘルスリテラシー」は、万人に共通する必須の社会的技能である。本講義では様々な健康・医療の課題を取り上げ、「ヘルスリテラシー」、そして「ヘルスコミュニケーション」の理解を深める。

[到達目標]

・疫学・EBMの知識を応用して、各種の健康・医療情報を適切に活用できる。
・マスメディア情報、インターネット情報を収集し、適正な吟味を行った上で意思決定、問題解決、そしてコミュニケーションの素材とすることができる。
・MBTIの視点から、個人の情報処理・認知、コミュニケーションの特性を理解する。

[授業計画と内容]

（※変更の可能性があるので開講日に確認して下さい）
第1回　10月 2日　疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門（１）（中山）
第2回　10月16日　疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門（２）（中山）
第3回　10月23日　インターネットとe-ヘルス（高橋）
第4回　11月 6日　ベネフィットとリスクのコミュニケーション（中山）
第5回　11月27日　ナラティブ情報の意義と可能性（中山）
第6回　12月4日　「がん」をめぐる患者・国民・医療者向け情報の整備（若尾）
第7回　12月11日　質の高い医療情報の集約・共有・普及：根拠に基づく診療ガイドラインを考える（中山・藤本）
第8回　12月18日　医療におけるデータの二次利用の課題（加藤）

健康情報学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

健康情報学Ⅰ(2)

第9回　12月25日　AI時代の健康情報を考える（中山）
第10回 1月8日　健康情報を巡る話題:テクニカル・コミュニケーションの視点から（黒田）
第11回 1月15日　ヘルス・リテラシーとリスク・コミュニケーション（杉森）
第12回　1月22日　健康情報ワールドカフェ（中山）
第13回 2月4日　個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ：MBTI (Myers-Briggs Type Indicator)　**セミオープンワークショップ　　13時30分～17時30分（園田）**
第14回 2月5日　個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ：MBTI (Myers-Briggs Type Indicator)　**セミオープンワークショップ　9時～12時、13時～16時（園田）**
第15回　2月12日　総合討論・個別発表　「健康情報学Iを履修して」（中山）

※「健康情報学II」の講義と重ならないように開講します。

[履修要件]

疫学または根拠に基づく医療（evidence-base medicine: EBM）**の基礎知識を持つことが望ましいが、必須ではない。**

[成績評価の方法・観点]

毎回の小レポート提出80%、発表20%　[素点(100点満点)評価]

[教科書]

講義資料は配布、MBTIワークショップのテキストは各自購入（4200円程度）

[参考書等]

（参考書）
中山健夫　著『健康・医療の情報を読み解く（第２版）健康情報学への招待』（丸善書店,2014年）ISBN:9784621087329
中山健夫　著『健康情報は8割疑え!: 京大医学部のヘルスリテラシー教室』（法研,2021年）ISBN:9784865138160
中山健夫・杉森裕樹　監訳『FDA **リスク＆ベネフィットコミュニケ―ション』（丸善書店,2015年）**ISBN:9784621089545
中山健夫, 藤本修平 編者『実践　シェアード・ディシジョンメイキング　改題改訂第２版』（医事新報社,2024年）ISBN:97847849146402
宮原 哲 ・中山 健夫 著『治療効果アップにつながる患者のコミュニケーション力　医師との会話・失敗例と成功例をケースごとに解説』（朝日新聞出版,2023年）ISBN:9784023322790

[授業外学修（予習・復習）等]

予習よりも復習に十分時間を取ること

[その他（オフィスアワー等）]

情報とは「意思決定において不確実性を減じるもの」と定義されます。社会における健康・医療に関する情報の適切なあり方、そして個人の特性理解の視点から、情報のコミュニケーションについて考えてみたいと思います。

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

[主要授業科目（学部・学科名）]

健康情報学Ⅰ(3)へ続く↓↓↓

健康情報学Ⅰ(3)